

西尾市古新田遺跡 出土瓦の再検討

—胎土分析の結果から—

● 小嶋廣也

古新田遺跡は、愛知県西尾市志貴野町宮前に所在する古代から中世にかけての複合遺跡である。矢作川と矢作古川の分岐点付近の矢作川左岸に位置している。遺物に凹面に布目痕の残る瓦が多く出土した。この矢作川流域には多くの古代寺院跡や瓦窯跡が知られており、本遺跡のすぐ南側に「志貴野廃寺」推定地や大郷瓦窯跡が位置している。報告書作成に際しこれらの瓦との比較検討をするために胎土分析を行ったが、時間的余裕がなく分析結果を十分に検討することができなかった。今回良机を得て分析結果をもう一度見直すことができた。小稿によって分析を行った各寺院跡・瓦窯跡を見ていくことで、古新田遺跡から出土した古代瓦について考えてみたいと思う。

1 はじめに

古新田遺跡は、西尾市志貴野町宮前に所在する古代から中世にかけての複合遺跡である。検出された竪穴住居に代表されるように古代集落を中心とする遺跡で、寺院跡や瓦窯跡とは直接には関係がない。しかし、調査の際に包含層や中世の井戸・溝の中から凹面に布目の残った古代瓦が多く出土した。丸瓦・平瓦が中心であるが、軒丸瓦の瓦当面と思われる瓦片や瓦塔なども確認されている。遺跡の南側には「志貴野廃寺」推定地や、やや離れて大郷瓦窯跡が位置しており、本遺跡周辺で古代瓦が採取されることは以前から知られていた。

昨年度、『古新田遺跡』の報告書を作成した中で、古新田遺跡で出土した瓦が何を意味するのかを少しでも明らかにするために古代瓦の胎土分析を実施した。分析は古新田遺跡だけではなく、豊田市の伊保白鳳寺跡・神明瓦窯跡、岡崎市の北野廃寺跡、安城市の寺領廃寺跡、西尾市の雨堀瓦窯跡、幡豆町の北迫瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡など、本遺跡が所在する矢作川流域の古代寺院跡や瓦窯跡を中心に資料を選定した。また、本遺跡出土の軒丸瓦と類似する軒丸瓦が出土している豊川市の三河国府跡や、寺領廃寺跡で出土した軒平瓦と同範と思われる軒平瓦が出土している豊橋市の市道遺跡など、豊川流域の古代寺院跡の資料も比較資料として含めてい

る。胎土分析は、株式会社第四紀地質研究所に依頼した。報告書作成中は時間的な制約もあって結果を掲載することが精一杯で、検討を加えることができなかった。今回、再考をする機会を得た。

2 分析資料

資料の選定には、高浜市やきものの里かわら美術館の天野卓哉氏にご協力いただいた。基本的に丸瓦・平瓦を中心に、その中でも須恵質・土師質のもの、凸面の調整に違いのあるもの（ナデや叩き目調整など）を主に選び出している。報告書では東三河の豊川流域の資料を含めて253点を行っているが、今回対象となるものは矢作川流域に所在する古代寺院跡と瓦窯跡で、全部で213点となる（表1）。内訳は、軒丸瓦4点、軒平瓦2点、丸瓦91点、平瓦116点である。また、凸面の調整別に見てみると、丸瓦ではナデ（ナデ消しを含む）と思われるものを含めて83点、縄目叩きが7点、格子目と思われるものが1点であり、平瓦ではナデ（ナデ消しを含む）と思われるものを含めて40点、縄目叩きが53点、格子目叩きが18点、平行叩きが4点、不明が1点（凸面が剥離しているため調整が確認できない）である。中でも丸瓦は、行基葺丸瓦を中心に行っているが、玉縁式丸瓦を5点含んでいる。以下、分析を行った古新田遺跡を含む18ヶ所の寺院跡や瓦窯跡を簡単に紹介する（図1）。なお、各資料の詳細につ

いては、報告書（小嶋編 2003）を参照していただきたい。（註 1）

伊保白鳳寺跡（豊田市保見町）

発掘調査は行われていないが、伊保川の河川付け替え工事の際に瓦列や瓦塔が出土したことから寺院跡と考えられている。資料は丸瓦 8 点・平瓦 12 点の計 20 点で、平瓦の凸面調整は縄目叩きが多く格子目叩きは少ないようである。

牛寺廃寺跡（豊田市野見町）

昭和 48（1973）年に発掘調査が行われているが、面積が僅かであったため遺構の性格や伽藍配置については不明な点が多い。資料は丸瓦 4 点・平瓦 6 点の計 10 点で、平瓦の凸面調整は格子目叩きがほとんどである。

神明瓦窯跡（豊田市鴛鴨町）

発掘調査は行われていないが、段丘崖下の水路から大量の瓦が出土していることから瓦窯跡と推定されている。採集された瓦の中に北野廃寺で出土した軒丸瓦と同じ文様をもつ軒丸瓦が確認されたことから、北野廃寺に瓦を供給していた瓦窯の 1 つと考えられている。資料は丸瓦 9 点・平瓦 6 点の計 15 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面調整に叩き調整は見られなかった。

舞木廃寺跡（豊田市舞木町）

塔跡が国指定史跡となり、塔心礎を中心として礎石が残存している。平成 15（2003）年にトレンチ調査が行われているが、発掘調査は実施されていない。資料は丸瓦 3 点・平瓦 4 点の計 7 点で、凸面の調整は平瓦で格子目叩きが見られる。

勸学院文護寺跡（豊田市寺部町）

現在の随応院境内に礎石が 1 つ残存し、文護寺跡のものといわれる丸瓦・平瓦が 1 点ずつ伝えられている。資料は丸瓦 1 点・平瓦 2 点の計 3 点で、平瓦で凸面の調整に格子目叩きが見られる。

下り松瓦窯跡（西加茂郡三好町）

昭和 40（1965）年頃に発掘調査が行われ、須恵器を併焼した無段の窖窯であることが確認されている。伊保白鳳寺で出土した軒丸瓦と同範の可能性の高い軒丸瓦が出土していることから、伊保白鳳寺に瓦を供給していた瓦窯であると考えられている。資料は軒丸瓦 1 点・丸瓦 3

点・平瓦 8 点の計 12 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

北野廃寺跡（岡崎市北野町）

西三河最古といわれる古代寺院で、国史跡に指定されている。昭和 39・54（1964・1979）年に発掘調査により遺構から四天王寺式伽藍配置が確認され、現在史跡公園として整備されている。資料は軒丸瓦 2 点・丸瓦 8 点・平瓦 8 点の計 18 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整に、縄目叩きと格子目叩きのものが見られた。

真福寺東谷遺跡（岡崎市真福寺町）

北野廃寺が真福寺に移転したと考えられていたが、昭和 54（1979）年の発掘調査により別の寺院であることが確認されている。資料は丸瓦 5 点と平瓦 5 点の計 10 点で、平瓦の凸面調整で、縄目叩きと格子目叩きと思われるものが見られた。

丸山廃寺跡（岡崎市丸山町）

正式な発掘調査は行われていないが、校舎造成工事の際に大量の瓦が出土したことから寺院跡と考えられている。資料は丸瓦 3 点・平瓦 3 点の計 6 点で、平瓦の凸面調整で、縄目叩きが見られる。

別郷廃寺跡（安城市別郷町）

発掘調査は行われていないが、古代瓦が散布していることから寺院跡と推定されている。資料は丸瓦 4 点・平瓦 5 点の計 9 点で、凸面の調整では丸瓦で縄目叩き、平瓦では平行叩きが見られる。

大久根遺跡（安城市小川町）

発掘調査は行われていないが、瓦がまとまって確認されていることなどから瓦窯跡と推定されている。資料は丸瓦 3 点・平瓦 3 点の計 6 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整に叩き痕は確認できていない。

寺領廃寺跡（安城市寺領町）

昭和 32・平成 13（1957・2001）年の発掘調査により遺構が確認され東大寺式伽藍配置であることが推定されているが、寺院の領域は確定できていない。資料は丸瓦 10 点・平瓦 10 点の計 20 点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

（註 1）各寺院跡・瓦窯跡については個別には記載しないが、報告書や後述の参考文献を参照している。

雨堀瓦窯跡（西尾市米津町）

立地条件などから瓦窯跡と推定されているが、発掘調査が行われないうちに消失した。同範の瓦は確認されていないが、寺領廃寺に瓦を供給していたのではないかと推定されている。資料は丸瓦3点・平瓦3点の計6点で、平瓦の凸面調整で縄目叩きが見られる。

志貴野遺跡（西尾市志貴野町）

昭和63・平成元（1988・1989）年の発掘調査で奈良時代から平安時代までの集落遺跡であることが確認され、古代瓦が出土している。資料は丸瓦6点・平瓦6点の計12点で、平瓦の凸面調整に縄目叩きと格子目叩きが見られる。

古新田遺跡（西尾市志貴野町）

本遺跡で、平成12年（2000）年の発掘調査で奈良時代までの集落跡が確認され、古代瓦や瓦塔が出土している。西尾市教育委員会の調査では、瓦は数点しか出土していない。資料は丸瓦6点・平瓦14点の計20点で、平瓦の凸面の調整には縄目叩きと格子目叩きが見られる。

北迫瓦窯跡（幡豆郡幡豆町）

土地改良事業に伴い平成4（1992）年に試掘調査が行われ、灰原の一部が確認され軒瓦を含む瓦が出土している。出土した軒丸瓦の中に同範の軒丸瓦があることから、鳥羽神宮寺に瓦を供給していたと考えられている。資料は軒平瓦1点・丸瓦5点・平瓦11点の計17点で、丸瓦・平瓦とも凸面の調整で縄目叩きが見られる。

寺部堂前遺跡（幡豆郡幡豆町）

付近の住民が瓦を持ち込んだことにより寺院跡と推定されるようになり、寺部廃寺ともいわれている。平成14（2002）年にトレンチ調査が行われている。資料は軒平瓦1点・丸瓦5点・平瓦5点の計11点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

鳥羽神宮寺跡（幡豆郡幡豆町）

現在の神明社境内周辺から瓦が出土することが知られており、寺院跡と推定されているが発掘調査は行われていない。資料は軒丸瓦1点・丸瓦5点・平瓦5点の計11点で、丸瓦・平瓦ともに凸面の調整で縄目叩きが見られる。

以上が、胎土分析を行った寺院跡・瓦窯跡である。これ以外にも、豊田市の駒場瓦窯跡、知立市の慶雲廃寺跡、岡崎市の大門遺跡・高隆寺

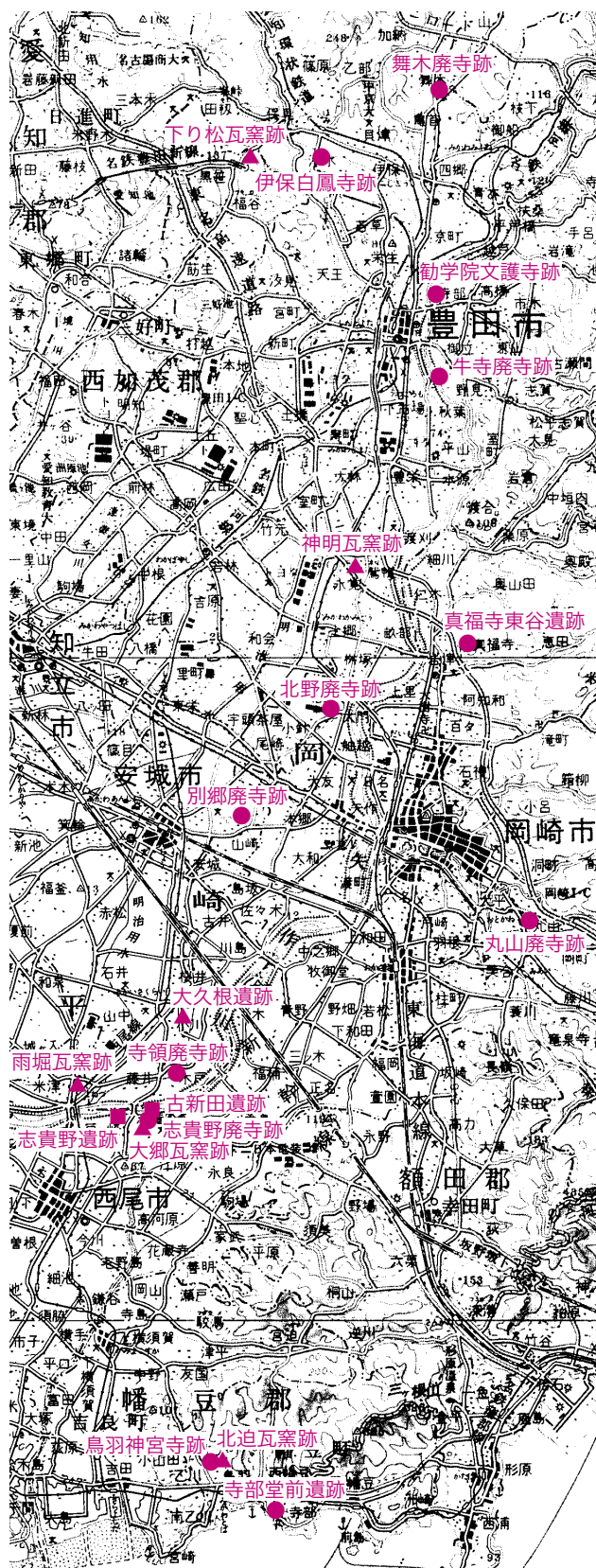


図1 胎土分析を実施した寺院跡・瓦窯跡位置図
(1:200,000) (国土地理院「豊橋」20万分の1より転載)

跡、安城市の塔の元遺跡、西尾市の志貴野廃寺跡・大郷瓦窯跡等が知られているが、今回は分析をすることはできなかった。ここで、古新田遺跡と近接する志貴野廃寺跡と大郷瓦窯跡を紹介しておく。

志貴野廃寺（西尾市志貴野町）

広い範囲から古代瓦が採集できることや礎石と推定される石が存在することなどから、寺院跡と推定されている。発掘調査は実施されていない。

大郷瓦窯跡（西尾市小島町）

かつて土取りの際に1ヶ所から多量の瓦が出土したことやその立地などから、瓦窯跡と推定されている。発掘調査が行われないまま消失した。寺領廃寺出土の軒丸瓦と同範の軒丸瓦が確認されていることから、寺領廃寺に瓦を供給していた瓦窯と考えられている。また、その位置関係から志貴野廃寺にも瓦を供給していたのではないかといわれている。

今回の胎土分析では、X線回折と化学成分分析の2つの分析を行っている。分析の結果については膨大なデータがセンターに保管されているので、詳しくはそれを参考にしていただきたい。それらの結果から、どのようなことが考えられるのかを見ていきたい。しかし、寺院跡や瓦窯跡では発掘調査が行われている事例が極めて少なく、資料も表採資料が多く含まれていることを予め断っておきたい。正確性にやや欠ける面があるかもしれないが、ある程度の傾向を見いだすことができるのではないかと思います。

3 X線回折

(1) 実験条件

X線回折に供する遺物試料は洗浄し、乾燥したのちに、メノウ乳鉢にて粉碎し、粉末試料として実験に供した。土器胎土に含まれる粘土鉱物及び造岩鉱物の同定はX線回折によった。測定には日本電子製 JDX-8020 X線回折装置を用い、次の実験条件で実験した。

Target: Cu, Filter: Ni, Voltage: 40kV, Current: 30mA, ステップ角度: 0.02°、計数時間: 0.5 秒。

(2) タイプ分類

X線回折に基づく粘土鉱物及び造岩鉱物の各々に記載される数字は、チャートの中に現れる各鉱物に特有のピークの強度を示す。その結果から井上氏は、胎土を9つにタイプ分類されている。(註2) なお鉱物は、モンモリロナイト (Mont)、雲母類 (Mica)、角閃石 (Hb)、緑泥石 (Ch) である。

A タイプ: Hb 1 成分を含み、Mont, Mica, Ch の3成分に欠ける。

B タイプ: Mica, Hb, Ch の3成分を含み、Mont 1 成分に欠ける。

C タイプ: Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Ch の2成分に欠ける。

D タイプ: Mica, Hb, Ch の3成分を含み、Mont 1 成分に欠ける。組成的にはBタイプと類似するが検出強度が異なる。

E タイプ: Mica, Hb の2成分を含み、Mont, Ch の2成分に欠ける。組成的にはCタイプと類似するが検出強度が異なる。

F タイプ: Mica, Ch の2成分を含み、Mont, Hb の2成分に欠ける。

G タイプ: Mica 1 成分を含み、Mont, Hb, Ch の3成分に欠ける。

H タイプ: Mont, Mica の2成分を含み、Hb, Ch の2成分に欠ける。

I タイプ: Mont, Mica, Hb, Ch の4成分に欠ける。高温で焼成されているため、鉱物は分解してガラスに変質したもので、4成分は検出されない。

この分類によれば、Aタイプには、丸瓦4点・平瓦2点の計6点で、北迫瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Bタイプには丸瓦のみ3点で、北迫瓦窯跡の丸瓦が主体となる。Cタイプには、軒丸瓦1点・丸瓦7点・平瓦12点の計20点で、寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Dタイプには平瓦のみ2点である。Eタイプには、丸瓦2点・平瓦3点の計5点である。Fタイプには、丸瓦3点・平瓦6点の計9点で、牛寺廃寺跡の平瓦が主体となる。Gタイプには、丸瓦30点・平瓦36点の

(註2) 井上氏の報告書に基づく。

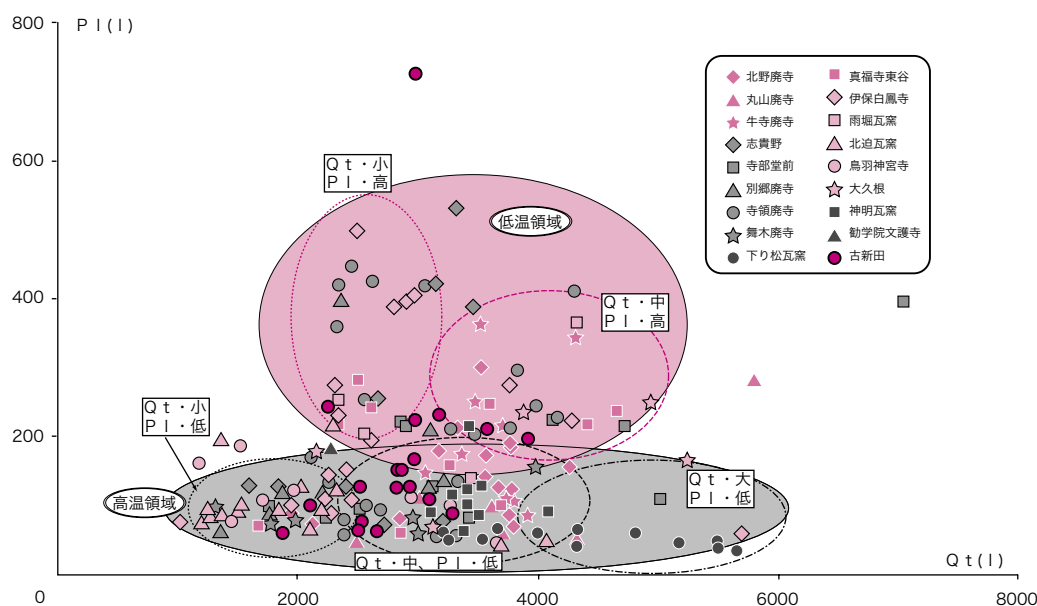


図2 Qt—PI 図 (総合、報告書より転載、一部改変)

計 66 点で、北野廃寺跡・真福寺東谷遺跡・別郷廃寺跡・寺領廃寺跡・神明瓦窯跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦が主体となる。Hタイプは、丸瓦・平瓦が各 1 点の計 2 点である。I タイプには、軒丸瓦 3 点・軒平瓦 2 点・丸瓦 41 点・平瓦 54 点の計 100 点で、ほとんどの瓦が含まれているが、北野廃寺跡・伊保白鳳寺跡・丸山廃寺跡・舞木廃寺跡・下り松瓦窯跡・志貴野遺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、神明瓦窯跡の丸瓦、北迫瓦窯跡の平瓦が主体となり、軒丸瓦・軒平瓦のほとんどが含まれている。9 つのタイプのうち、高温で焼成され 4 成分が検出されない I タイプが最も多く、全体の 46.9% を占める。次いで、雲母類 (Mica) の 1 成分が検出される G タイプが 31.0%、雲母類 (Mica)・角閃石 (Hb) の 2 成分が検出される C タイプが 9.4% を占め、この 3 試料で全体の 87.3% を占めている。これ以外の A、B、D、E、F、H の 6 タイプでは全体の 12.7% を占めるのみである。

(3) 石英 (Qt) - 斜長石 (PI) の相関について

胎土中に含まれる砂の粘土に対する混合比は、粘土の材質、焼成温度と大きな関わりがある。これにより胎土を分類することができる。図 2 の Qt - PI 図 (総合、丸瓦・平瓦別は図 3)

(註 3) 註 2 に同じ。

に示すように、石英 (Qt) の強度が小さい領域から大きい領域にかけて Qt: 小、Qt: 中、Qt: 大、斜長石 (PI) の強度が低い領域から高い領域にかけて焼成温度の低い PI: 高、焼成温度の高い PI: 低に分類されている。(註 3)

Qt: 小・PI: 高 - Qt が 2000 ~ 3200、PI が 200 ~ 550 の領域に分布する。

Qt: 中・PI: 高 - Qt が 3100 ~ 5200、PI が 200 ~ 400 の領域に分布する。

Qt: 小・PI: 低 - Qt が 800 ~ 2600、PI が 50 ~ 200 の領域に分布する。

Qt: 中・PI: 低 - Qt が 2500 ~ 4400、PI が 50 ~ 200 の領域に分布する。

Qt: 大・PI: 低 - Qt が 3600 ~ 6000、PI が 50 ~ 200 の領域に分布する。

その他: 上記の分類に入らないものが「その他」として分類されている。古新田遺跡-5 は PI が高、丸山廃寺跡-4、寺部堂前遺跡-5 は Qt が大で異質である。

これによれば、「Qt: 小・PI: 高」には、丸瓦 10 点・平瓦 16 点の計 26 点で、伊保白鳳寺跡・寺領廃寺跡の丸瓦・平瓦と、真福寺東谷遺跡・雨堀瓦窯跡の平瓦が主体となる。「Qt: 中・

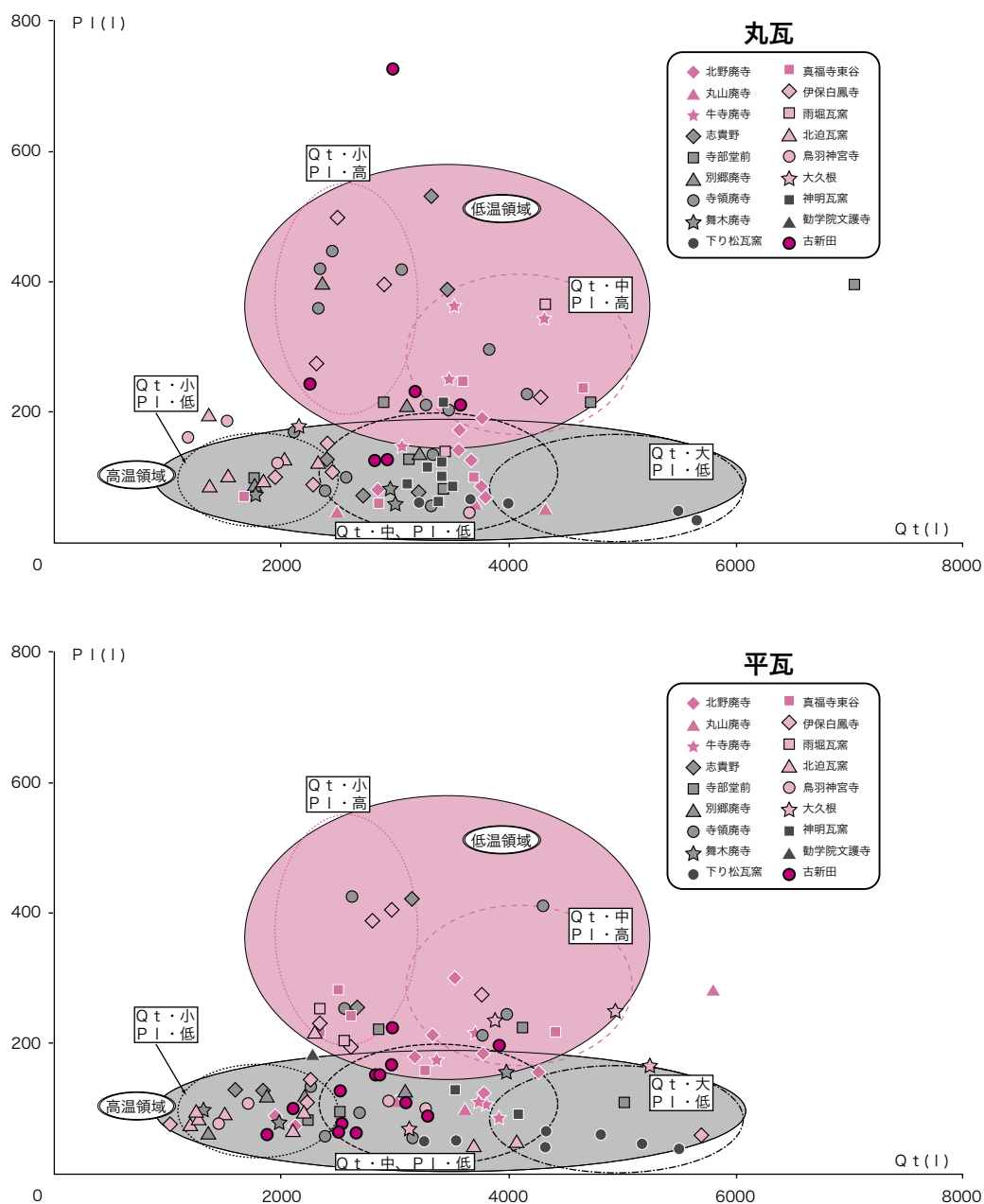


図3 Qt—Pl図(平瓦・丸瓦、報告書より転載、一部改変)

Pl: 高」には、軒丸瓦1点・丸瓦13点・平瓦14点の計28点で、寺領廃寺跡・眞福寺東谷遺跡・牛寺廃寺跡の丸瓦・平瓦と、北野廃寺跡の平瓦が主体となる。「Qt: 小・Pl: 低」には、軒平瓦1点・丸瓦24点・平瓦36点の計61点で、伊保白鳳寺跡・北迫瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡・別郷廃寺跡・志貴野遺跡の丸瓦・平瓦と、舞木廃寺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。「Qt: 中・Pl: 低」には、軒丸瓦3点・丸瓦36点・平瓦41点の計80点で、北野廃寺跡・丸山廃寺跡・

神明瓦窯跡・鳥羽神宮寺跡の丸瓦・平瓦と、舞木廃寺跡・牛寺廃寺跡の丸瓦、別郷廃寺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。「Qt: 大・Pl: 低」には、軒丸瓦1点・丸瓦3点・平瓦8点の計12点で、下り松瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。これ以外に、「Qt: 小中・Pl: 高」には、丸瓦2点・平瓦1点の計3点で、すべて志貴野遺跡の瓦である。「その他」に分類されたものが、丸瓦2点・平瓦1点の計3点である。このうち、一番多いのは「Qt: 中・Pl: 低」の瓦

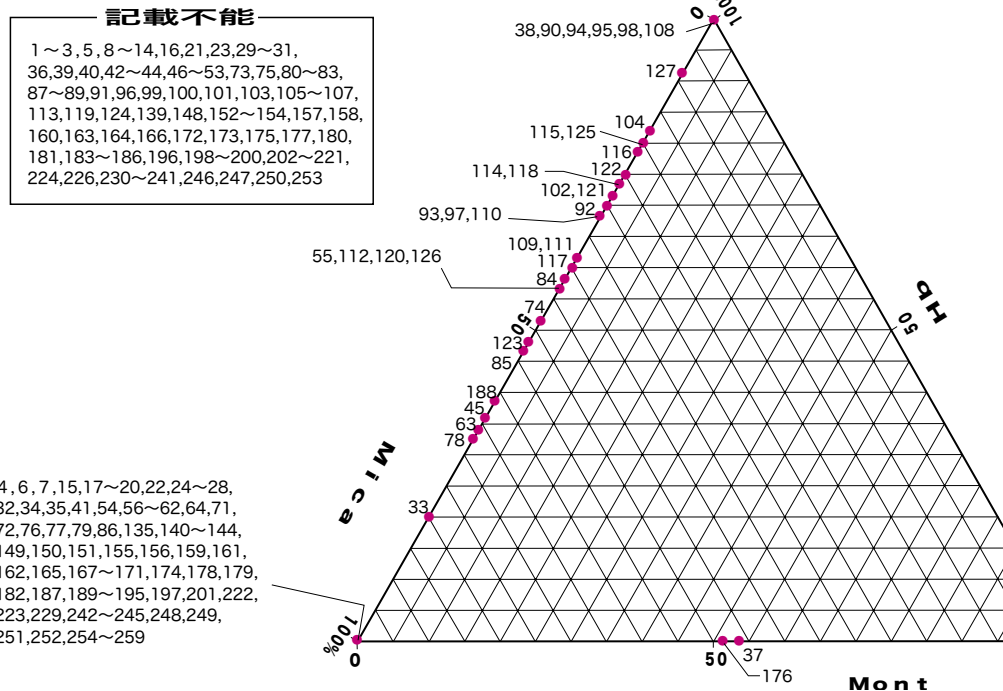


図4 Mont—Mica—Hb 三角ダイヤグラム (報告書より転載、一部改変)

で 37.6%、次いで「Qt：小・Pl：低」の瓦で 28.6%であり、この 2 つで全体の 66.2%を占めている。また、石英 (Qt)・斜長石 (Pl) を別々に見てみると、「Qt：小・中」の瓦が混入される砂の量が比較的少ない瓦は全体の 93.0%とその大半を占めている。「Pl：低」の焼成ランクが高い瓦は、全体で 71.8%を占めている。

(4) 小結

図 4 の Mont - Mica - Hb 三角ダイヤグラムを見ると、3 つの成分を含まないとして記載不能とされた瓦が多く見られるが、これは高温で焼成されたことで鉱物がガラスに変質したためと考えることができる。これ以外の大部分は、雲母類 (Mica) によって分類が可能であることがわかる。雲母類が花崗岩の特徴的な鉱物であることから、ある程度まとまった範囲の中で瓦が作られていたことを示めしていると考えられる。この中で、雲母類が 100%の瓦は、丸瓦 33 点・平瓦 41 点の計 74 点である。北野廃寺跡・真福寺東谷遺跡・神明瓦窯跡・牛寺廃寺跡・寺領廃寺跡・別郷廃寺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、伊保白鳳寺跡・雨堀瓦窯跡・志貴野遺跡の丸瓦、舞木廃寺跡・丸山廃寺跡の平瓦

を見ることができる。丸瓦のうち 32 点はナデ調整 (ナデ消しを含む) で、残る 1 点は縄目叩き調整である。平瓦のうちナデ調整 (ナデ消しを含む) の瓦は 18 点で、縄目叩き 13 点、格子目叩き 8 点、平行叩き 2 点となっている。

また、雲母類 (Mica) が 100%の瓦 74 点をタイプ別に見てみると雲母類 (Mica) の 1 成分が検出される G タイプがほとんどであるが、雲母類 (Mica)・角閃石 (Hb) の 2 成分が検出される F タイプが 8 点 (丸瓦 3 点・平瓦 5 点) 含まれている。石英 (Qt) - 斜長石 (Pl) 別に見てみると、「Qt：小・Pl：高」には、丸瓦 6 点・平瓦 8 点の計 14 点 (18.9%) である。「Qt：小・Pl：低」には、丸瓦 2 点・平瓦 7 点の計 9 点 (12.2%) である。「Qt：中・Pl：高」には、丸瓦 10 点・平瓦 9 点の計 19 点 (25.7%) である。「Qt：中・Pl：低」には、丸瓦 13 点・平瓦 15 点の計 28 点 (37.8%) である。「Qt：小中・Pl：高」には、丸瓦のみ 1 点 (1.4%)、「Qt：大・Pl：低」には、平瓦のみ 1 点 (1.4%)、「その他」には、丸瓦・平瓦が各 1 点の計 2 点 (2.7%) である。全体の比率から見ても、「Qt：中・Pl：低」が多いことには変わらないが、「Qt：小・Pl：高」の比率が減少し「Qt：

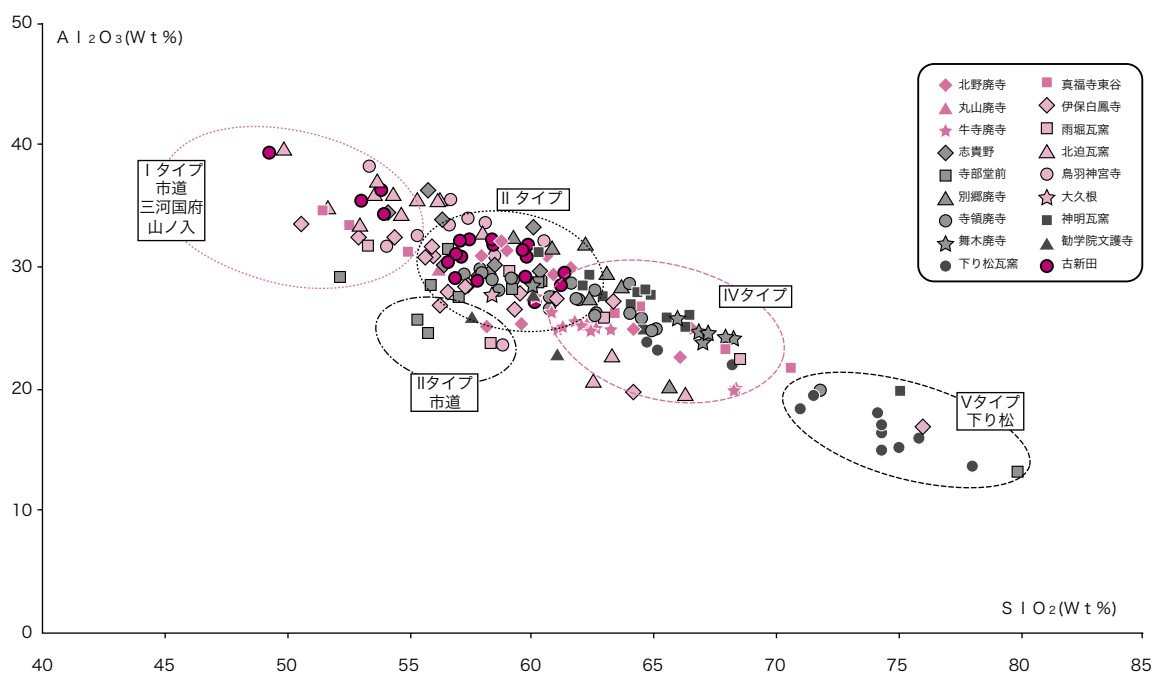


図5 SiO₂—Al₂O₃図(総合、報告書より転載、一部改変)

中・PI:高」が増加していることが確認できる。これは、焼成ランクが低い瓦が多いことを示している。ただし、焼成ランクの高低については、同じ窯においても窯内に詰められた段階で焚き口に近いか遠いかで違いが生じるとも考えられ、一概に焼成温度の違いだけで分類することが可能であるのか疑問が残る。同じタイプならば、焼成ランクの違いだけで分類するのは好ましくないとと思われる。

3 化学成分分析

(1) 実験条件

化学成分分析は土器をダイヤモンドカッターで小片に切断し、表面を洗浄し、乾燥後、試料表面をコーティングしないで、直接電子顕微鏡の鏡筒内に挿入し、分析した。元素分析は日本電子製 5300LV 型電子顕微鏡に 2001 型エネルギー分散型蛍光 X 線分析装置をセットし、実験条件は加速電圧:15kV、分析法:スプリント法、分析倍率:200 倍、分析有効時間:100 秒、分析指定元素 10 元素で行った。

分析結果は酸化物として、ノーマル法 (10

元素全体で 100% となる) で計算し、化学成分分析表を作成している。その分析表に基づいて SiO₂—Al₂O₃ 図、Fe₂O₃—Na₂O 図、K₂O—CaO 図、TiO₂—MnO 図を作成し、瓦を元素の面から分類している。ここでは、組成分類の基本となっている SiO₂—Al₂O₃ 図を中心にしておく。

(2) SiO₂—Al₂O₃ の相関について

図 5 の SiO₂—Al₂O₃ 図(総合、丸瓦・平瓦別は図 6) に示すように、瓦は SiO₂ が低い領域から高い領域に向かって、I～V タイプの 5 タイプに分類されている(表 1)。(註 4)

I タイプ: SiO₂ が 43～56%、Al₂O₃ が 28～40% の領域に分布する。

II タイプ: SiO₂ が 53～60%、Al₂O₃ が 18～28% の領域に分布する。

III タイプ: SiO₂ が 55～68%、Al₂O₃ が 24～35% の領域に分布する。

IV タイプ: SiO₂ が 60～70%、Al₂O₃ が 18～30% の領域に分布する。

V タイプ: SiO₂ が 70～82%、Al₂O₃ が 12～22% の領域に分布する。

(註 4) 註 2 に同じ。

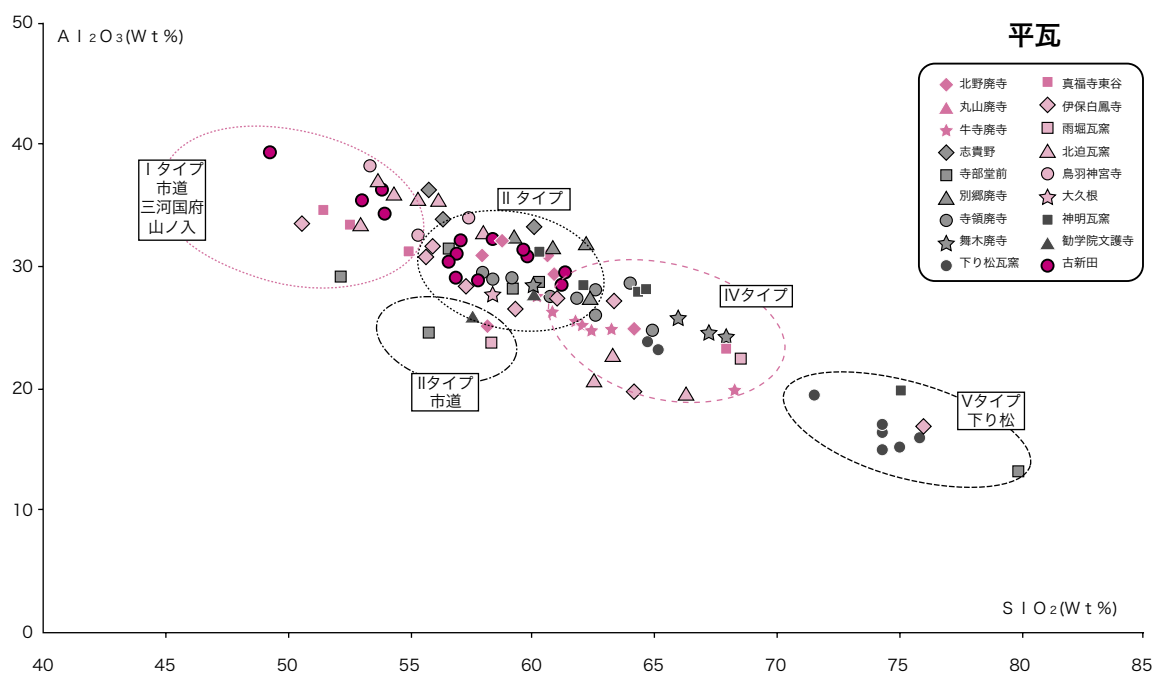
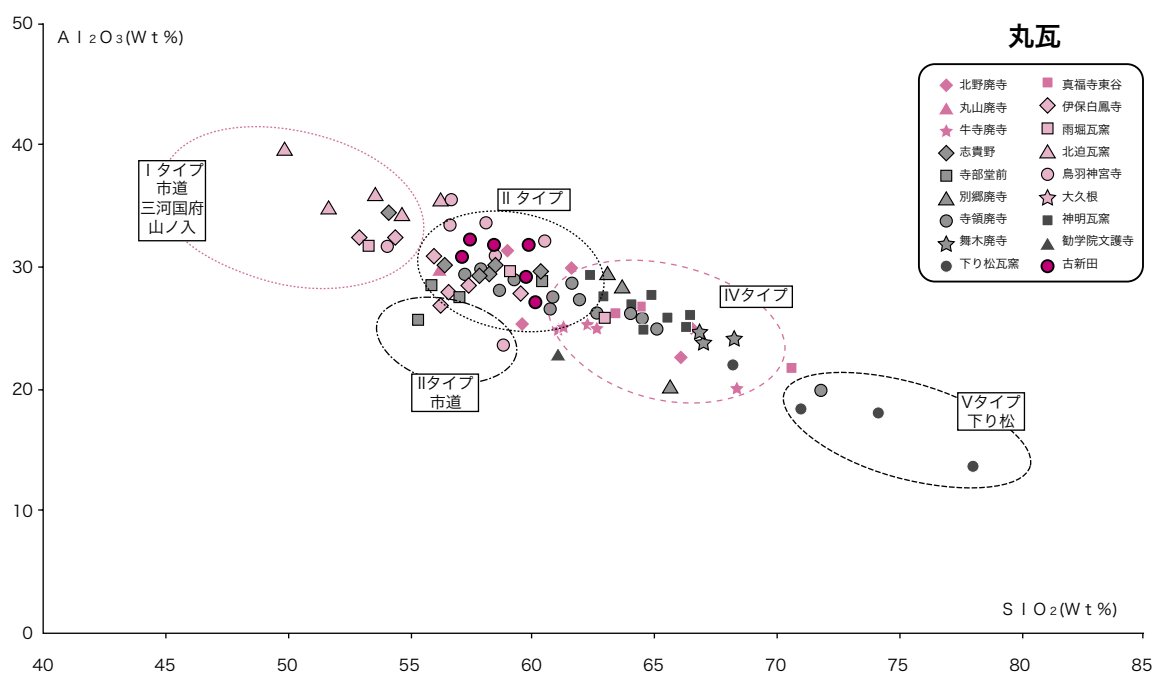


図6 SiO₂—Al₂O₃図(丸瓦・平瓦、報告書より転載、一部改変)

Iタイプには、丸瓦8点・平瓦17点の計25点で、伊保白鳳寺跡・志貴野遺跡・北迫瓦窯跡の丸瓦・平瓦、真福寺東谷遺跡・古新田遺跡の平瓦が主体となる。IIタイプには、丸瓦1点・平瓦2点の計3点のみである。IIIタイプには、軒丸瓦3点・軒平瓦1点・丸瓦49点、平

瓦68点の計121点で、北野廃寺跡・丸山廃寺跡・伊保白鳳寺跡・寺領廃寺跡・大久根遺跡・志貴野遺跡・寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡・古新田遺跡の丸瓦・平瓦、真福寺東谷遺跡・雨堀瓦窯跡の丸瓦、牛寺廃寺跡・勸学院文護寺跡・別郷廃寺跡・神明瓦窯跡の平瓦が主体となる。

IVタイプには、軒平瓦1点・丸瓦30点・平瓦21点の計52点で、北野廃寺跡・舞木廃寺跡・神明瓦窯跡の丸瓦・平瓦、牛寺廃寺跡・別郷廃寺跡の丸瓦、雨堀瓦窯跡・北迫瓦窯跡の平瓦が主体となる。Vタイプには、軒丸瓦1点・丸瓦3点・平瓦8点の計12点で、下り松瓦窯跡の丸瓦・平瓦が主体となる。5つのタイプのうち一番多いのはⅢタイプの瓦で、56.8%を占めている。次いでIVタイプが24.4%を占め、この2つのタイプで全体の81.2%を占めている。

(3) 小結

各寺院跡・瓦窯跡の瓦を $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3$ 図で分類されたタイプ別に見てみると、丸山廃寺跡の瓦は1タイプ、牛寺廃寺跡・舞木廃寺跡・勸学院文護寺跡・下り松瓦窯跡・北野廃寺跡・別郷廃寺跡・大久根遺跡・志貴野遺跡・鳥羽神宮寺跡の瓦は2タイプ、神明瓦窯跡・真福寺東谷遺跡・寺領廃寺跡・雨堀瓦窯跡・古新田遺跡の瓦は3タイプ、伊保白鳳寺跡・北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡の瓦は4タイプに分かれている。これらのタイプ数の違いが意味するものは何であろうか。単純に複数の瓦窯から瓦が供給されたと考えることができるし、寺院が長期間存在していたために創建時の瓦以外に補修用の瓦が新たに搬入されたとも考えることができる。表採資料が多いこともあり詳しいことはわからないが、北野廃寺跡や寺領廃寺跡の例などから後者であった可能性が高いと思われる。

また、Mont-Mica-Hb三角ダイアグラムで雲母類(Mica)が100%の瓦74点だけを見てみると、Iタイプには丸瓦2点・平瓦5点の計7点(9.5%)である。IIタイプには丸瓦のみ1点(1.4%)である。Ⅲタイプには、丸瓦16点・平瓦27点の計43点(58.1%)である。IVタイプには、丸瓦13点・平瓦8点の計21点(28.4%)である。Vタイプには丸瓦・平瓦が各1点で計2点(2.7%)である。これを全体と比較してみると、I・Vタイプがやや減少し、Ⅲ・IVタイプが増えていることが確認できる。これはI・Vタイプの瓦が高温で焼かれているため、鉱物が分解しガラスに変質している瓦が多いことが影響しているのかもしれない。

(註5)(註6)註2と同じ。

4 まとめ

(1) 胎土分析の結果について

古新田遺跡より出土した瓦の分析と周辺地域の瓦の分析結果を取りまとめたものが表2の組成分類表に示してある。これは化学成分分析による $\text{SiO}_2-\text{Al}_2\text{O}_3$ の相関でI～Vの5つのタイプに分類したものを、X線回析による石英(Qt)-斜長石(Pl)の相関を加味して細分し、表2に示すように全体で瓦を43タイプに分類されている。(註5)43タイプのうち、軒丸瓦は3タイプ・軒丸瓦は2タイプ・丸瓦は18タイプ・平瓦は20タイプにそれぞれ分類されている。今回分析を行った寺院跡・瓦窯跡毎に、2つの分析により得られたタイプ分類と組成分類について見ていきたい。

伊保白鳳寺跡 タイプ分類では、丸瓦は4タイプ、平瓦は3タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は4タイプ、平瓦は6タイプに分類されている。しかし、焼成ランクが異なるためにいくつかに分類されているが、化学組成的には類似性が高いといえる。

牛寺廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに3タイプに分類されており、雲母類(Mica)・角閃石(Hb)の2成分が検出されるFタイプが目立つ。組成分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦3タイプに分類されているが、伊保白鳳寺跡同様化学組成的には類似性が高いといえる。また、丸瓦はIVタイプ・平瓦はⅢタイプと区別されており、瓦の種類により供給元が違う可能性も考えられる。

神明瓦窯跡 タイプ分類では、丸瓦で4タイプ、平瓦で2タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦4タイプに分類されているが、丸瓦・平瓦ともにIVタイプがその大半を占めていることから、化学組成的には類似性が高いといえる。北野廃寺の瓦の1つのタイプと同じであり、北野廃寺に補修用の瓦を供給した窯跡と考えられる。

舞木廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦で1タイプ、平瓦で2タイプに分類されている。組成分

類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されているが、平瓦1点（Ⅲタイプ）を除けばⅣタイプのみとなり、化学組成的には類似性が高いといえる。

勸学院文護寺跡 資料数は3点と少ないが、タイプ分類では丸瓦・平瓦ともに1タイプ、組成分類でも丸瓦・平瓦ともに1タイプのみに分類されている。瓦の種類による区別はなさそうである。

下り松瓦窯跡 タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに1タイプのみである。組成分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されているが、そのほとんどがⅤタイプで「PI：低」という焼成温度が高い瓦であり、他の瓦とは明らかに異なっていることがわかる。軒丸瓦についても同様のことがいえる。この瓦窯から伊保白鳳寺に瓦が供給されていたと考えられているが、今回の結果からは共通点が少ないように思われる。（註6）

北野廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦は2タイプに分類されている。組成分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦は4タイプに分類されているが、焼成ランクが異なるだけで大きくⅢ・Ⅳの2つのタイプに分けられる。2点の軒丸瓦はともにⅢタイプで、丸瓦や平瓦と区別して考えることはできないと思われる。

真福寺東谷遺跡 タイプ分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は1タイプのみに分類されている。Gタイプで雲母類（Mica）の強度が高いものがあり、他の瓦とはやや異なっている。組成分類では、丸瓦は4タイプ、平瓦は3タイプに分類されているが、焼成ランクが異なるだけで、丸瓦はⅢ・Ⅳの2つのタイプ、平瓦はⅠ・Ⅲ・Ⅳの3つのタイプに分けられる。位置的に近い北野廃寺跡の瓦に分類的には近いが、平瓦のⅠタイプは異質と思われる。

丸山廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦では1タイプのみ、平瓦では2タイプに分類されている。Gタイプで雲母類（Mica）の強度の高いものがあり、他の瓦とはやや異なる。組成分類では、丸瓦は1タイプ、平瓦は2タイプに分類されており、丸瓦・平瓦ともほぼまとまりをもっていると思われる。

別郷廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦・平瓦と

も2タイプに分類されている。組成分類でも丸瓦・平瓦とも2タイプに分類されている。丸瓦と平瓦は、焼成ランクが異なるものの別々のタイプと考えられる。

大久根遺跡 タイプ分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されている。組成分類でも、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されているが、丸瓦・平瓦ともにⅢ・Ⅳの2つのタイプが見られ、瓦の種類による区別はなさそうである。

寺領廃寺跡 タイプ分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されている。平瓦に、モンモリロナイト（Mont）・雲母類（Mica）の2成分が検出されるHタイプが1点確認され、やや異質である。組成分類では、丸瓦は5タイプ、平瓦は6タイプに分類されている。焼成ランクの違いを考慮に入れても、丸瓦は3タイプ、平瓦は2～3タイプになると思われる。他の寺院跡に比べてタイプ数が多く、分散する傾向がみられる。

雨堀瓦窯跡 タイプ分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されている。平瓦に雲母類（Mica）・角閃石（Hb）の2成分が検出されるCタイプが1点確認されている。組成分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されている。丸瓦・平瓦ともにタイプ数が多く、1つの瓦窯としては異質と思われる。この点をふまえると、丸瓦・平瓦ともに寺領廃寺跡の瓦と共通するタイプが見られることから、寺領廃寺に瓦を供給していた窯跡である可能性は高いと思われる。

志貴野遺跡 タイプ分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦は4タイプに分類されている。雲母類（Mica）・角閃石（Hb）の2成分が検出されるC・Eタイプと、雲母類（Mica）・角閃石（Hb）・緑泥石（Ch）の3成分が検出されるDタイプが見られる。組成分類では、丸瓦で3タイプ、平瓦で5タイプに分類されているが、それぞれ大きくⅠ・Ⅲの2つのタイプと考えることができる。

北迫瓦窯跡 タイプ分類では、丸瓦・平瓦とも3タイプに分類されている。角閃石（Hb）の1成分が検出されるAタイプや雲母類（Mica）・角閃石（Hb）・緑泥石（Ch）の3成

分が検出されるBタイプが目立っている。角閃石(Hb)の強度の高いCタイプの瓦が1点ある。組成分類では、丸瓦で2タイプ、平瓦で5タイプに分類され、Iタイプが半数以上を占めている。軒平瓦はIVタイプで、丸瓦と平瓦は別のタイプと考えられる。タイプ分類・組成分類ともに他の寺院跡・瓦窯跡とは異質である。

寺部堂前遺跡 タイプ分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦は2タイプに分類されているが、角閃石(Hb)の強度の高いCタイプの瓦が目立っている。組成分類では、丸瓦は4タイプ、平瓦は5タイプに分類されているが、丸瓦はⅢタイプの1つのタイプであるのに対し、平瓦はI・II・Ⅲ・Vの4つのタイプに分けられ特異である。また、軒平瓦はⅢタイプである。

鳥羽神宮寺跡 タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに3タイプに分類されている。北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡と同様、角閃石(Hb)の強度の高いCタイプの瓦が目立っている。組成分類では、丸瓦は2タイプ、平瓦は3タイプに分類されているが、ほとんどがⅢタイプである。また、軒丸瓦はタイプ分類は異なるが、組成分類では丸瓦・平瓦と同様にⅢタイプである。

以上、古新田遺跡を除く17ヶ所の寺院跡・瓦窯跡をそれぞれ見てみると、ある程度の傾向をつかむことができる。神明瓦窯跡・北野廃寺跡・下り松瓦窯跡・丸山廃寺跡・北迫瓦窯跡などのようにある程度のまとまりがあるものと、寺領廃寺跡・雨堀瓦窯跡・寺部堂前遺跡などのように分散する傾向の強いものがあることがわかる。これが意味するところは何であろうか。まとまりのみられるものは、1つの窯から瓦が供給され短期間しか存在しなかった、逆に分散傾向の強いものは、長期間継続していたために複数の窯から瓦が供給されたためと考えることができるのではないだろうか。また、1つの窯をみてもいくつかのタイプが見られる。長期間操業していくなかで、原料の粘土が変化したり、砂の混合比が変化したり、製作技法が変化したり、職人が変化したりと、さまざまな要因を想定することができる。今回の分析におい

て、軒丸瓦・軒平瓦・丸瓦・平瓦という瓦の種類による胎土の違い、凸面の調整による胎土の違い、丸瓦で行基葺丸瓦と玉縁式丸瓦の胎土の違いを明らかにすることを主眼としていたが、今回の分析だけでは不十分であり、まだまだ資料数が不足していると実感した。さらなる胎土分析の積み重ねが必要である。

(2) 古新田遺跡出土の古代瓦

最後に古新田遺跡の分析結果を見ておく。タイプ分類では、丸瓦・平瓦ともに雲母類(Mica)の1成分が検出されるGタイプと、高温で焼成されたため4成分が検出されないIタイプの2つに分類される。この2つのタイプで今回分析を行った瓦全体の約78%を占めている。組成分類では、丸瓦は3タイプ、平瓦は6タイプに分類される。丸瓦・平瓦ともに概ねⅢタイプでまとめられるが、丸瓦ではIIタイプが、平瓦ではIタイプの瓦が確認されている。胎土分析を行った井上氏によれば、「寺領廃寺の瓦類は大きく分けて3種類あり、傾向としては異質である。(中略)古新田遺跡の瓦類は寺領廃寺跡の瓦類と類似する傾向が認められ、3種類とも同じ領域にあり、関連性が伺われる。」と指摘されている。(註7) 今回の分析結果をみると、大部分の瓦については寺領廃寺跡の瓦に類似していると思われるが、IIタイプの丸瓦やIタイプの平瓦などの一部の瓦では旧幡豆郡の北迫瓦窯跡・寺部堂前遺跡・鳥羽神宮寺跡の瓦に共通点が見られるようにも考えられる。

また、古新田遺跡から出土した瓦の中で、軒丸瓦の瓦当部分が7点と、軒平瓦と思われる瓦片が数点確認されている(図7)。軒丸瓦の瓦当面は大きく2つに分けられる。まず1つ目は1～3(図7)で、半球状の中房をもつ素弁蓮華文の土師質の軒丸瓦で、三角形の間弁や周囲に圈線をもち、周縁は無文と思われる。ただし、瓦当面裏下半部に周縁状の突帯があったのかについては摩滅が激しく不明である。一応北野廃寺系の軒丸瓦とみることができる。類例を探したところ豊川市の三河国府跡で出土した軒丸瓦

(註7) 名古屋市博物館梶山氏やかわら美術館天野氏のご教示による。

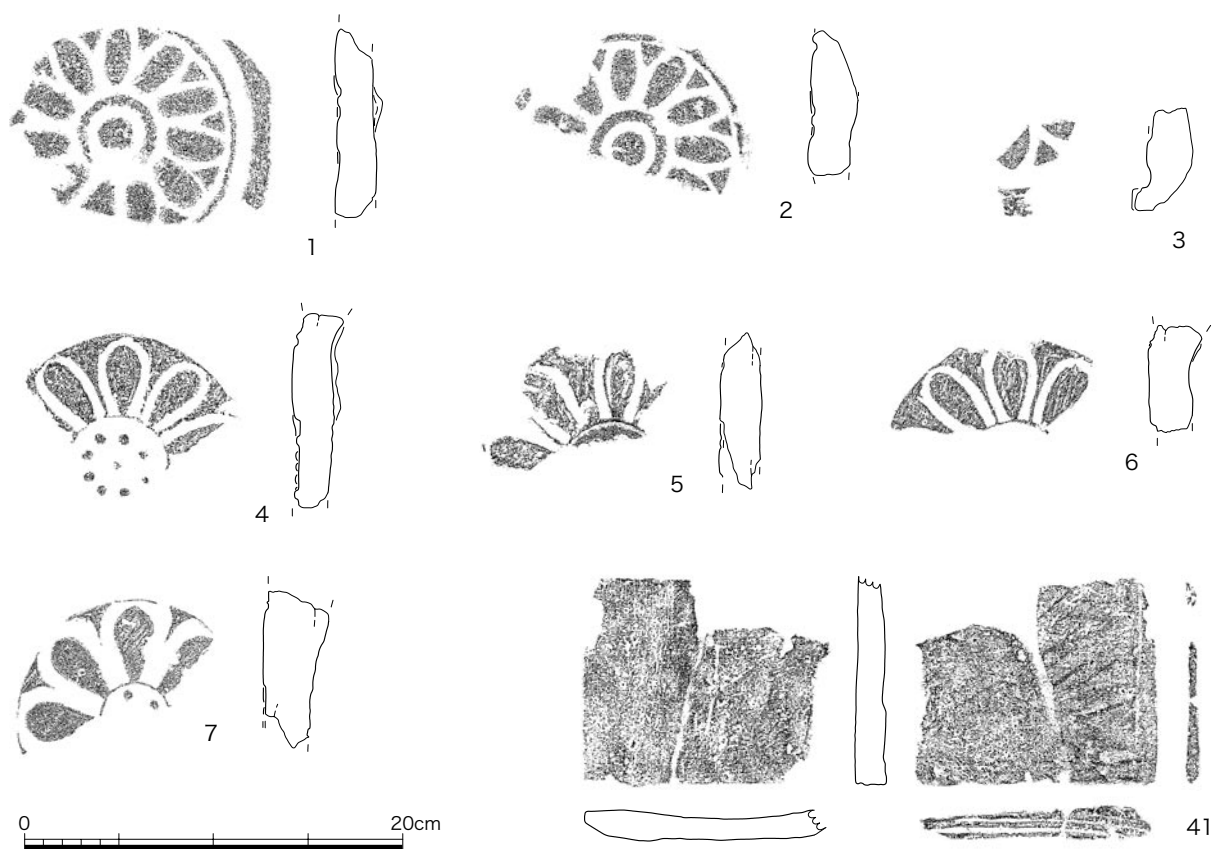


図7 古新田遺跡出土の軒丸瓦・軒平瓦（報告書より転載、一部改変）

41

が類似しているが、蓮華文の葉の数や間弁が丸形と三角形という違いがみられる。これは、矢作川流域で盛んに作られていた北野廃寺系の軒丸瓦が三河国府に影響を与え、さらに三河国府から古新田遺跡で出土した軒丸瓦に伝えられたものと考えられる。（註8）このような例は他にも見られる。例えば、安城市の寺領廃寺跡で見られる波状文（鋸歯文）に珠点を配した軒平瓦が豊橋市の市道遺跡で出土していることや、小坂井町の医王寺跡で見られる型押し廉状文の軒平瓦が幡豆町の寺部堂前遺跡で出土していることなどがあげられる。今回の胎土分析の結果からそれぞれの瓦の胎土が異なっていることは明らかであり、西三河で作られた瓦が東三河に持ち込まれたのではなく、工人や技術（瓦の範など）が移動したことを示していると思われる。古新田遺跡で出土したこれらの瓦は、東三河から逆輸入された工人・技術により作られ

たこととなる。時期的にもよくわかっていないが、三河国府跡より新しい段階の瓦と考えられる。（註9）この軒丸瓦は、周辺の寺院跡から確認されていないことから、存在に不明な点が多いが志貴野廃寺の屋根を飾っていた瓦と考えることも可能である。2つ目は4～7（図7）で、一部に単弁が見られる素弁蓮華文の文様をもち、中房には蓮子が配置された須恵質の軒丸瓦である。周囲に布目痕が確認されていることから、側板連結模骨の丸瓦を接合させていたと思われる。これらの軒丸瓦は、寺領廃寺跡出土の軒丸瓦と類似性が高い。さらに、西尾市資料館に所蔵されている大郷瓦窯から出土したといわれる軒丸瓦を見せていただいた時に、4（図7）の軒丸瓦と酷似しており、これらの軒丸瓦が大郷瓦窯で作られた可能性が高いと考えようになった。今回胎土分析を実施してはいないが、大郷瓦窯が寺領廃寺に瓦を供給していたと

（註8）（註9） 名古屋市博物館梶山氏やかわら美術館天野氏のご教示による。

表1 分析瓦一覽表

通説試料No	資料名	通説場所	旧郡	瓦種	材質	古代瓦	凹面	凸面	備考	タイプ分類	組成分類	分析試料番号
北野廃寺	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	ニ	ニ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-1
北野廃寺-2	同崎市	旧碧海郡	軒丸瓦	土質質	ニ	ニ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-2
北野廃寺-3	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-3
北野廃寺-4	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-4
北野廃寺-5	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-5
北野廃寺-6	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-6
北野廃寺-7	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデ				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-7
北野廃寺-8	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕+ナデか	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-8
北野廃寺-9	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	格子目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-9
北野廃寺-10	同崎市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕か	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-10
北野廃寺-11	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕+ナデ	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-11
北野廃寺-12	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-12
北野廃寺-13	同崎市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-13
北野廃寺-14	同崎市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-14
北野廃寺-15	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕か	格子目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-15
北野廃寺-16	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-16
北野廃寺-17	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕か	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-17
北野廃寺-18	同崎市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-18
真福寺東谷-1	同崎市	旧額田郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-19
真福寺東谷-2	同崎市	旧額田郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-20
真福寺東谷-3	同崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-21
真福寺東谷-4	同崎市	旧額田郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕か	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-22
真福寺東谷-5	同崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-23
真福寺東谷-6	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印きか				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-24
真福寺東谷-7	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕か	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-25
真福寺東谷-8	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕か	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-26
真福寺東谷-9	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-27
真福寺東谷-10	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-28
丸山廃寺-1	同崎市	旧額田郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-29
丸山廃寺-2	同崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-30
丸山廃寺-3	同崎市	旧額田郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-31
丸山廃寺-4	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕か	横目印きか				G	Ⅱタイプ: その他	古新田-32
丸山廃寺-5	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕	ニ				E	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-33
丸山廃寺-6	同崎市	旧額田郡	平瓦	土質質	布目痕か	横目印きか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-34
伊保白鳳寺-1	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-35
伊保白鳳寺-2	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-36
伊保白鳳寺-3	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				H	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-37
伊保白鳳寺-4	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-38
伊保白鳳寺-5	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-39
伊保白鳳寺-6	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-40
伊保白鳳寺-7	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-41
伊保白鳳寺-8	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き+ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-42
伊保白鳳寺-9	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き+ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・大・P・I・低	古新田-43
伊保白鳳寺-10	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-44
伊保白鳳寺-11	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	横目印き				D	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-45
伊保白鳳寺-12	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き+ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-46
伊保白鳳寺-13	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	格子目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-47
伊保白鳳寺-14	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き+ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-48
伊保白鳳寺-15	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-49
伊保白鳳寺-16	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデか	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-50
伊保白鳳寺-17	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-51
伊保白鳳寺-18	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	ナデか	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-52
伊保白鳳寺-19	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-53
伊保白鳳寺-20	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	横目印き				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-54
牛寺廃寺-1	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕+ナデか	ナデか				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-55
牛寺廃寺-2	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-56
牛寺廃寺-3	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-57
牛寺廃寺-4	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-58
牛寺廃寺-5	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕か	格子目印き				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-59
牛寺廃寺-6	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-60
牛寺廃寺-7	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕か	格子目印き				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-61
牛寺廃寺-8	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕か	格子目印き				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-62
牛寺廃寺-9	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印き				E	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-63
牛寺廃寺-10	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印き				F	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-64
南郷瓦窯-1	西尾市	旧碧海郡(註10)	丸瓦	土質質	布目痕+ナデか	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-71
南郷瓦窯-2	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-72
南郷瓦窯-3	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-73
南郷瓦窯-4	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-74
南郷瓦窯-5	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-75
南郷瓦窯-6	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	横骨痕・ナデか	横目印き+ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-76
志貴野-1	西尾市	旧碧海郡(註11)	丸瓦	土質質	ナデか	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-77
志貴野-2	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	ナデか	ナデか				E	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-78
志貴野-3	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデか				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-79
志貴野-4	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-80
志貴野-5	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ+ナズリ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-81
志貴野-6	西尾市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-82
志貴野-7	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-83
志貴野-8	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕	横目印き				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-84
志貴野-9	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕か	横目印き				D	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-85
志貴野-10	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	布目痕	格子目印き				G	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-86
志貴野-11	西尾市	旧碧海郡	平瓦	土質質	ナデか	格子目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-87
志貴野-12	西尾市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	格子目印き+ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-88
北迫瓦窯-1	幡豆町	旧幡豆郡	軒平瓦	土質質	布目痕	ニ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-89
北迫瓦窯-2	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-90
北迫瓦窯-3	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕	横目印き+ナデか				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-91
北迫瓦窯-4	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				B	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-92
北迫瓦窯-5	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				B	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-93
北迫瓦窯-6	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデか				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-94
北迫瓦窯-7	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	横目印き+ナデか				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-95
北迫瓦窯-8	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-96
北迫瓦窯-9	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	横目印き				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-97
北迫瓦窯-10	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	横目印き				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-98
北迫瓦窯-11	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-99
北迫瓦窯-12	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-100
北迫瓦窯-13	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	ナデ・横骨痕	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-101
北迫瓦窯-14	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	布目痕	ナデ				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-102
北迫瓦窯-15	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	ナデ	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-103
北迫瓦窯-16	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	横目印き+ナデ				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-104
北迫瓦窯-17	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	ナデ	横目印き				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-105
寺部堂前-1	幡豆町	旧幡豆郡	軒平瓦	須恵質	ニ	ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-106
寺部堂前-2	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	ナデ				A	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-107
寺部堂前-3	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	横目印き+ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-108
寺部堂前-4	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデ				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-109
寺部堂前-5	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	布目痕	ナデ				C	Ⅱタイプ: その他	古新田-110
寺部堂前-6	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	ナデ・横骨痕	ナデ				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-111
寺部堂前-7	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土質質	ナデ	横目印き				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・高	古新田-112
寺部堂前-8	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕・横骨痕	横目印き+ナデ				I	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-113
寺部堂前-9	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	布目痕・横骨痕	ナデ				C	Ⅱタイプ: Q・t・中・P・I・低	古新田-114
寺部堂前-10	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土質質	ナデ	横目印き				C	Ⅱタイプ: Q・t・大・P・I・低	古新田-115
寺部堂前-11												

資料名		古 代 瓦		タイプ		組成分類		分析試料番号
遺跡試料No	遺跡場所	旧郡	瓦 種	材 質	凹 面	凸 面	備考	
鳥羽神宮寺-1	幡豆町	旧幡豆郡	軒丸瓦	須恵質	—	—		C
鳥羽神宮寺-2	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ	軒丸瓦か	C
鳥羽神宮寺-3	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
鳥羽神宮寺-4	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		C
鳥羽神宮寺-5	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕	編目叩き+ナデ		B
鳥羽神宮寺-6	幡豆町	旧幡豆郡	丸瓦	須恵質	布目痕+ナデ	ナデ		E
鳥羽神宮寺-7	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	編目叩き		I
鳥羽神宮寺-8	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕	編目叩き		C
鳥羽神宮寺-9	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕	編目叩き		C
鳥羽神宮寺-10	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	土師質	布目痕+ナデ	編目叩き		C
鳥羽神宮寺-11	幡豆町	旧幡豆郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデ	編目叩き		C
別観庵寺-1	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	編目叩き+ナデ	玉縁	I
別観庵寺-2	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		G
別観庵寺-3	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	ナデ	ナデ	玉縁	G
別観庵寺-4	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
別観庵寺-5	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	平行叩き		I
別観庵寺-6	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
別観庵寺-7	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	平行叩き		G
別観庵寺-8	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデ	平行叩き+ナデ		I
別観庵寺-9	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	平行叩き		G
大久根-1	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		I
大久根-2	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
大久根-3	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	模骨痕	ナデ		G
大久根-4	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデ	ナデ		I
大久根-5	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕+ナデ	ナデ		F
大久根-6	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
寺領庵寺-1	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
寺領庵寺-2	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		G
寺領庵寺-3	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	ナデ	ナデ	玉縁	G
寺領庵寺-4	安城市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
寺領庵寺-5	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ	玉縁	G
寺領庵寺-6	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
寺領庵寺-7	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	編目叩き+ナデ		G
寺領庵寺-8	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		G
寺領庵寺-9	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
寺領庵寺-10	安城市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		I
寺領庵寺-11	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	編目叩き		I
寺領庵寺-12	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	編目叩き		G
寺領庵寺-13	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	編目叩き+ナデ		I
寺領庵寺-14	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	編目叩き		H
寺領庵寺-15	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	編目叩き		I
寺領庵寺-16	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデ		G
寺領庵寺-17	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
寺領庵寺-18	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデ	ナデ		I
寺領庵寺-19	安城市	旧碧海郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
寺領庵寺-20	安城市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕	編目叩き		G
神明瓦窯-1	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	ナデ	ナデ		I
神明瓦窯-2	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
神明瓦窯-3	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
神明瓦窯-4	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
神明瓦窯-5	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-6	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		E
神明瓦窯-7	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-8	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		F
神明瓦窯-9	豊田市	旧碧海郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		G
神明瓦窯-10	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-11	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-12	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-13	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
神明瓦窯-14	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
神明瓦窯-15	豊田市	旧碧海郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-1	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ	軒丸瓦か	I
舞木庵寺-2	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-3	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-4	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-5	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	格子目叩き		I
舞木庵寺-6	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	格子目叩き		I
舞木庵寺-7	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕+ナデ	ナデ		I
舞木庵寺-8	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	ナデ	ナデ		I
舞木庵寺-9	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	格子目叩き+ナデ		I
舞木庵寺-10	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-11	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-12	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-13	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕	編目叩き+ナデ		I
舞木庵寺-14	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	ナデ	ナデ		I
舞木庵寺-15	豊田市	旧賀茂郡	丸瓦	土師質	布目痕	ナデ		I
舞木庵寺-16	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	編目叩き		I
舞木庵寺-17	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	編目叩き		I
舞木庵寺-18	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	編目叩き+ナデ		I
舞木庵寺-19	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	須恵質	布目痕・模骨痕	編目叩き		I
舞木庵寺-20	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	ナデ	ナデ		I
舞木庵寺-21	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	編目叩き		I
舞木庵寺-22	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕+ナデ	ナデ		I
舞木庵寺-23	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		I
舞木庵寺-24	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-25	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-26	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-27	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-28	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	布目痕・模骨痕	ナデ		G
舞木庵寺-29	豊田市	旧賀茂郡	平瓦	土師質	ナデ	ナデ		G

(註10)・(註11)・(註12) 本来西尾市志貴野町・米津町は旧幡豆郡といわれている。しかし、旧幡豆郡とする根拠は明らかにされてはいない。現在の矢作川や市域が区画の根拠になっているように思われるが、これは江戸時代初頭に開削された新しい川であり、集落や寺院があったと思われる古代には対岸の安城市から延びる碧海台地と地続きとなっていたのである。この点から、旧幡豆郡ではなく旧碧海郡と考える方が自然だと思っている。なお、郡の境界は八ツ面山周辺と推定しておきたい。

表 2 組成分類表

遺跡試料No	遺跡場所	瓦 種	タイプ 分類	備考 (分析試料番号)
Iタイプ: Q t-小・P I-高				
伊保白鳳寺-1	豊田市	丸瓦	G	古新田-35
伊保白鳳寺-2	豊田市	丸瓦	I	古新田-36
Iタイプ: Q t-中・P I-高				
雨掘瓦窯-2	西尾市	丸瓦	G	古新田-72
Iタイプ: Q t-小中・P I-高				
志貴野-2	西尾市	丸瓦	E	古新田-78
Iタイプ: Q t-小・P I-低				
北迫瓦窯-2	幡豆町	丸瓦	A	古新田-90
北迫瓦窯-3	幡豆町	丸瓦	I	古新田-91
北迫瓦窯-4	幡豆町	丸瓦	B	古新田-92
北迫瓦窯-6	幡豆町	丸瓦	A	古新田-94
Iタイプ: Q t-小・P I-高				
真福寺東谷-6	岡崎市	平瓦	G	古新田-24
真福寺東谷-9	岡崎市	平瓦	G	古新田-27
真福寺東谷-10	岡崎市	平瓦	G	古新田-28
Iタイプ: Q t-中・P I-高				
伊保白鳳寺-17	豊田市	平瓦	I	古新田-51
Iタイプ: Q t-小・P I-低				
志貴野-9	西尾市	平瓦	D	古新田-85
北迫瓦窯-7	幡豆町	平瓦	A	古新田-95
北迫瓦窯-11	幡豆町	平瓦	I	古新田-99
北迫瓦窯-15	幡豆町	平瓦	I	古新田-103
北迫瓦窯-16	幡豆町	平瓦	C	古新田-104
北迫瓦窯-17	幡豆町	平瓦	I	古新田-105
寺部堂前-9	幡豆町	平瓦	C	古新田-114
古新田-12	西尾市	平瓦	G	古新田-251
古新田-14	西尾市	平瓦	I	古新田-253
古新田-17	西尾市	平瓦	G	古新田-256
Iタイプ: Q t-中・P I-低				
志貴野-12	西尾市	平瓦	I	古新田-88
鳥羽神宮寺-7	幡豆町	平瓦	E	古新田-123
古新田-11	西尾市	平瓦	I	古新田-250
IIタイプ: その他				
古新田-5	西尾市	丸瓦	G	古新田-244
IIタイプ: Q t-小・P I-低				
北迫瓦窯-14	幡豆町	平瓦	C	古新田-102
IIタイプ: Q t-大・P I-低				
寺部堂前-10	幡豆町	平瓦	C	古新田-115
IIIタイプ: Q t-小・P I-高				
伊保白鳳寺-7	豊田市	丸瓦	G	古新田-41
寺部堂前-4	幡豆町	丸瓦	C	古新田-109
別郷廃寺-3	安城市	丸瓦	G	古新田-150
寺領廃寺-2	安城市	丸瓦	I	古新田-164
寺領廃寺-5	安城市	丸瓦	G	古新田-167
古新田-2	西尾市	丸瓦	I	古新田-241
IIIタイプ: Q t-中・P I-高				
真福寺東谷-1	岡崎市	丸瓦	G	古新田-19
伊保白鳳寺-3	豊田市	丸瓦	H	古新田-37
寺部堂前-6	幡豆町	丸瓦	C	古新田-111
寺領廃寺-7	安城市	丸瓦	G	古新田-169
寺領廃寺-10	安城市	丸瓦	I	古新田-172
古新田-4	西尾市	丸瓦	G	古新田-243
古新田-6	西尾市	丸瓦	G	古新田-245
IIIタイプ: Q t-小中・P I-高				
志貴野-1	西尾市	丸瓦	G	古新田-77
IIIタイプ: Q t-小・P I-低				
丸山廃寺-3	岡崎市	丸瓦	I	古新田-31
伊保白鳳寺-4	豊田市	丸瓦	A	古新田-38
伊保白鳳寺-5	豊田市	丸瓦	I	古新田-39
伊保白鳳寺-6	豊田市	丸瓦	I	古新田-40
伊保白鳳寺-19	豊田市	丸瓦	I	古新田-53
志貴野-3	西尾市	丸瓦	G	古新田-79
北迫瓦窯-5	幡豆町	丸瓦	B	古新田-93

遺跡試料No	遺跡場所	瓦 種	タイプ 分類	備考 (分析試料番号)
鳥羽神宮寺-2	幡豆町	丸瓦	C	古新田-118
鳥羽神宮寺-4	幡豆町	丸瓦	C	古新田-120
鳥羽神宮寺-5	幡豆町	丸瓦	C	古新田-121
鳥羽神宮寺-6	幡豆町	丸瓦	B	古新田-122
寺領廃寺-4	安城市	丸瓦	I	古新田-166
寺領廃寺-9	安城市	丸瓦	G	古新田-171
IIIタイプ: Q t-中・P I-低				
北野廃寺-4	岡崎市	丸瓦	G	古新田-4
北野廃寺-5	岡崎市	丸瓦	I	古新田-5
北野廃寺-6	岡崎市	丸瓦	F	古新田-6
北野廃寺-7	岡崎市	丸瓦	G	古新田-7
北野廃寺-9	岡崎市	丸瓦	I	古新田-9
真福寺東谷-3	岡崎市	丸瓦	I	古新田-21
丸山廃寺-1	岡崎市	丸瓦	I	古新田-29
丸山廃寺-2	岡崎市	丸瓦	I	古新田-30
雨掘瓦窯-1	西尾市	丸瓦	G	古新田-71
雨掘瓦窯-3	西尾市	丸瓦	I	古新田-73
志貴野-4	西尾市	丸瓦	I	古新田-80
志貴野-5	西尾市	丸瓦	I	古新田-81
志貴野-6	西尾市	丸瓦	I	古新田-82
寺部堂前-2	幡豆町	丸瓦	I	古新田-107
寺部堂前-3	幡豆町	丸瓦	A	古新田-108
神宮寺-3	幡豆町	丸瓦	I	古新田-119
大久根-2	安城市	丸瓦	I	古新田-158
大久根-3	安城市	丸瓦	G	古新田-159
寺領廃寺-1	安城市	丸瓦	I	古新田-163
古新田-1	西尾市	丸瓦	I	古新田-240
古新田-3	西尾市	丸瓦	G	古新田-242
IIIタイプ: その他				
寺部堂前-5	幡豆町	丸瓦	C	古新田-110
IIIタイプ: Q t-小・P I-高				
伊保白鳳寺-11	豊田市	平瓦	D	古新田-45
伊保白鳳寺-12	豊田市	平瓦	I	古新田-46
伊保白鳳寺-14	豊田市	平瓦	I	古新田-48
伊保白鳳寺-20	豊田市	平瓦	F	古新田-54
雨掘瓦窯-4	西尾市	平瓦	C	古新田-74
志貴野-10	西尾市	平瓦	G	古新田-86
北迫瓦窯-13	幡豆町	平瓦	I	古新田-101
寺部堂前-11	幡豆町	平瓦	C	古新田-116
寺領廃寺-12	安城市	平瓦	G	古新田-174
寺領廃寺-15	安城市	平瓦	I	古新田-177
古新田-16	西尾市	平瓦	G	古新田-255
IIIタイプ: Q t-中・P I-高				
北野廃寺-11	岡崎市	平瓦	I	古新田-11
北野廃寺-17	岡崎市	平瓦	G	古新田-17
北野廃寺-18	岡崎市	平瓦	G	古新田-18
牛寺廃寺-7	豊田市	平瓦	F	古新田-61
寺部堂前-7	幡豆町	平瓦	C	古新田-112
大久根-5	安城市	平瓦	F	古新田-161
寺領廃寺-14	安城市	平瓦	H	古新田-176
寺領廃寺-20	安城市	平瓦	G	古新田-182
古新田-20	西尾市	平瓦	G	古新田-259
IIIタイプ: Q t-小中・P I-高				
志貴野-11	西尾市	平瓦	I	古新田-87
IIIタイプ: Q t-小・P I-低				
伊保白鳳寺-10	豊田市	平瓦	I	古新田-44
伊保白鳳寺-13	豊田市	平瓦	I	古新田-47
伊保白鳳寺-16	豊田市	平瓦	I	古新田-50
志貴野-7	西尾市	平瓦	I	古新田-83
志貴野-8	西尾市	平瓦	C	古新田-84
北迫瓦窯-9	幡豆町	平瓦	C	古新田-97
北迫瓦窯-10	幡豆町	平瓦	A	古新田-98
鳥羽神宮寺-8	幡豆町	平瓦	I	古新田-124
鳥羽神宮寺-11	幡豆町	平瓦	C	古新田-127

すれば、これらの瓦は寺領廃寺の屋根を飾っていた瓦と考えることができる。軒平瓦については出土数が僅かであるために不明な点が多いが、41(図7)には端部に重弧文が施され、軒平瓦の一部と考えることができる。矢作川流域の寺院跡では、北野廃寺系の軒丸瓦と重弧文の軒平瓦が多く確認されていることから、共

通点があるように思われる。

軒瓦以外に、丸瓦と平瓦をみておく。出土した丸瓦は、行基葺きの粘土板作りで側板連結模骨を使用し、凸面をナデ調整などで叩き目痕を消しているものが多い。そのため、凸面にどのような叩き調整が行われていたのか確認することは困難である。玉縁式丸瓦は出土していな

遺跡試料No	遺跡場所	瓦 種	タイプ 分類	備考 分析試料番号
別郷廃寺-5	安城市	平瓦	I	古新田-152
別郷廃寺-7	安城市	平瓦	I	古新田-154
別郷廃寺-8	安城市	平瓦	G	古新田-155
別郷廃寺-9	安城市	平瓦	G	古新田-156
寺領廃寺-11	安城市	平瓦	I	古新田-173
寺領廃寺-19	安城市	平瓦	I	古新田-181
舞木廃寺-6	豊田市	平瓦	I	古新田-203
勸学院文蔵寺-2	豊田市	平瓦	I	古新田-206
勸学院文蔵寺-3	豊田市	平瓦	I	古新田-207
古新田-13	西尾市	平瓦	G	古新田-252
古新田-18	西尾市	平瓦	G	古新田-257
古新田-19	西尾市	平瓦	G	古新田-258
Ⅲタイプ：Q t-中・P I-低				
北野廃寺-12	岡崎市	平瓦	I	古新田-12
北野廃寺-15	岡崎市	平瓦	G	古新田-15
北野廃寺-16	岡崎市	平瓦	I	古新田-16
真福寺東谷-7	岡崎市	平瓦	G	古新田-25
丸山廃寺-5	岡崎市	平瓦	E	古新田-33
丸山廃寺-6	岡崎市	平瓦	G	古新田-34
伊保白鳳寺-15	豊田市	平瓦	I	古新田-49
伊保白鳳寺-18	豊田市	平瓦	I	古新田-52
牛寺廃寺-5	豊田市	平瓦	F	古新田-59
牛寺廃寺-6	豊田市	平瓦	G	古新田-60
牛寺廃寺-8	豊田市	平瓦	F	古新田-62
牛寺廃寺-10	豊田市	平瓦	F	古新田-64
鳥羽神宮寺-9	幡豆町	平瓦	C	古新田-125
鳥羽神宮寺-10	幡豆町	平瓦	C	古新田-126
別郷廃寺-6	安城市	平瓦	I	古新田-153
大久根-4	安城市	平瓦	I	古新田-160
寺領廃寺-13	安城市	平瓦	I	古新田-175
寺領廃寺-18	安城市	平瓦	I	古新田-180
神明瓦窯-10	豊田市	平瓦	G	古新田-192
神明瓦窯-15	豊田市	平瓦	G	古新田-197
古新田-7	西尾市	平瓦	I	古新田-246
古新田-8	西尾市	平瓦	I	古新田-247
古新田-9	西尾市	平瓦	G	古新田-248
古新田-10	西尾市	平瓦	G	古新田-249
古新田-15	西尾市	平瓦	G	古新田-254
Ⅲタイプ：その他				
丸山廃寺-4	岡崎市	平瓦	G	古新田-32
Ⅲタイプ：Q t-中・P I-高				
鳥羽神宮寺-1	幡豆町	軒丸瓦	C	古新田-117
Ⅲタイプ：Q t-中・P I-低				
北野廃寺-1	岡崎市	軒丸瓦	I	古新田-1
北野廃寺-2	岡崎市	軒丸瓦	I	古新田-2
Ⅲタイプ：Q t-小・P I-低				
寺部堂前-1	幡豆町	軒平瓦	I	古新田-106
Ⅳタイプ：Q t-小・P I-高				
寺領廃寺-3	安城市	丸瓦	G	古新田-165
寺領廃寺-6	安城市	丸瓦	G	古新田-168
Ⅳタイプ：Q t-中・P I-高				
真福寺東谷-4	岡崎市	丸瓦	G	古新田-22
牛寺廃寺-1	豊田市	丸瓦	C	古新田-55
牛寺廃寺-2	豊田市	丸瓦	F	古新田-56
牛寺廃寺-3	豊田市	丸瓦	G	古新田-57
神明瓦窯-5	豊田市	丸瓦	G	古新田-187
Ⅳタイプ：Q t-小・P I-低				
北野廃寺-3	岡崎市	丸瓦	I	古新田-3
北野廃寺-8	岡崎市	丸瓦	I	古新田-8
真福寺東谷-5	岡崎市	丸瓦	I	古新田-23
別郷廃寺-1	安城市	丸瓦	I	古新田-148
大久根-1	安城市	丸瓦	I	古新田-157
神明瓦窯-1	豊田市	丸瓦	I	古新田-183
舞木廃寺-1	豊田市	丸瓦	I	古新田-198

い。また、出土した平瓦は粘土板桶巻き作りで、凸面に格子目叩き痕が残るものとナデ調整（ナデ消しを含む）したものに大きく分けることができる。これ以外に、平行叩き痕を残す瓦も僅かに確認されている。また、粘土板一枚作りで凸面に縄目叩き痕を残す瓦も出土している。志貴野廃寺跡から出土したといわれるほぼ完形の

遺跡試料No	遺跡場所	瓦 種	タイプ 分類	備考 (分析試料番号)
Ⅳタイプ：Q t-中・P I-低				
北野廃寺-10	岡崎市	丸瓦	I	古新田-10
真福寺東谷-2	岡崎市	丸瓦	G	古新田-20
牛寺廃寺-4	豊田市	丸瓦	G	古新田-58
別郷廃寺-2	安城市	丸瓦	G	古新田-149
別郷廃寺-4	安城市	丸瓦	G	古新田-151
神明瓦窯-2	豊田市	丸瓦	I	古新田-184
神明瓦窯-3	豊田市	丸瓦	I	古新田-185
神明瓦窯-4	豊田市	丸瓦	I	古新田-186
神明瓦窯-6	豊田市	丸瓦	E	古新田-188
神明瓦窯-7	豊田市	丸瓦	G	古新田-189
神明瓦窯-8	豊田市	丸瓦	F	古新田-190
神明瓦窯-9	豊田市	丸瓦	G	古新田-191
舞木廃寺-2	豊田市	丸瓦	I	古新田-199
舞木廃寺-3	豊田市	丸瓦	I	古新田-200
勸学院文蔵寺-1	豊田市	丸瓦	I	古新田-205
Ⅳタイプ：Q t-大・P I-低				
下り松瓦窯-3	三好町	丸瓦	I	古新田-210
Ⅳタイプ：Q t-小・P I-高				
雨掘瓦窯-6	西尾市	平瓦	G	古新田-76
Ⅳタイプ：Q t-中・P I-高				
真福寺東谷-8	岡崎市	平瓦	G	古新田-26
寺領廃寺-16	安城市	平瓦	G	古新田-178
神明瓦窯-11	豊田市	平瓦	G	古新田-193
Ⅳタイプ：Q t-小・P I-低				
北野廃寺-14	岡崎市	平瓦	I	古新田-14
伊保白鳳寺-8	豊田市	平瓦	I	古新田-42
舞木廃寺-5	豊田市	平瓦	I	古新田-202
舞木廃寺-7	豊田市	平瓦	I	古新田-204
Ⅳタイプ：Q t-中・P I-低				
北野廃寺-13	岡崎市	平瓦	I	古新田-13
牛寺廃寺-9	豊田市	平瓦	E	古新田-63
雨掘瓦窯-5	西尾市	平瓦	I	古新田-75
北迫瓦窯-8	幡豆町	平瓦	I	古新田-96
北迫瓦窯-12	幡豆町	平瓦	I	古新田-100
寺領廃寺-17	安城市	平瓦	G	古新田-179
神明瓦窯-12	豊田市	平瓦	G	古新田-194
神明瓦窯-14	豊田市	平瓦	I	古新田-196
舞木廃寺-4	豊田市	平瓦	G	古新田-201
Ⅳタイプ：Q t-大・P I-低				
大久根-6	安城市	平瓦	G	古新田-162
下り松瓦窯-7	三好町	平瓦	I	古新田-214
下り松瓦窯-10	三好町	平瓦	I	古新田-217
Ⅳタイプ：Q t-中・P I-低				
北迫瓦窯-1	幡豆町	軒平瓦	I	古新田-89
Ⅴタイプ：Q t-中・P I-高				
寺領廃寺-8	安城市	丸瓦	G	古新田-170
Ⅴタイプ：Q t-大・P I-低				
下り松瓦窯-2	三好町	丸瓦	I	古新田-209
下り松瓦窯-4	三好町	丸瓦	I	古新田-211
Ⅴタイプ：Q t-小・P I-低				
寺部堂前-8	幡豆町	平瓦	I	古新田-113
Ⅴタイプ：Q t-中・P I-低				
神明瓦窯-13	豊田市	平瓦	G	古新田-195
下り松瓦窯-5	三好町	平瓦	I	古新田-212
下り松瓦窯-8	三好町	平瓦	I	古新田-215
下り松瓦窯-11	三好町	平瓦	I	古新田-218
Ⅴタイプ：Q t-大・P I-低				
伊保白鳳寺-9	豊田市	平瓦	I	古新田-43
下り松瓦窯-6	三好町	平瓦	I	古新田-213
下り松瓦窯-9	三好町	平瓦	I	古新田-216
下り松瓦窯-12	三好町	平瓦	I	古新田-219
Ⅴタイプ：Q t-大・P I-低				
下り松瓦窯-1	三好町	軒丸瓦	I	古新田-208

平瓦1枚と丸瓦2枚が『西尾市史』で紹介されている。平瓦・丸瓦ともに土師質の大形品で、丸瓦はともに行基葺丸瓦である。他に凸面に格子目叩き痕の残す平瓦片も採集されており、これらの瓦と古新田遺跡で出土した丸瓦・平瓦はともに類似性が高いと思われる。

古新田遺跡から出土した古代瓦は、一時期に

作られた瓦とは考えにくい。例えば、前述した須恵質の軒丸瓦（図7の4～7）では、間弁が中房まで繋がっているものや離れているものの違いがあり時期的な差を見出すことができ、他に土師質の軒丸瓦（図7の1～3）も確認されている。平瓦においても、凸面の調整において、ナデ調整（ナデ消しを含む）・縄目叩き・格子目叩きの違いがあり、一時期に調整の違う平瓦を焼いて寺院の屋根に葺いていたとは考えにくい。また、縄目叩き痕を残す平瓦は、製作技法も異なっている。そうすると、今回古新田遺跡から出土した古代瓦は、長い期間にわたって蓄積されてきたものであることがわかる。

最後に、大胆な推測をして小稿を終えたい。古新田遺跡の発掘調査によって、多くの古代瓦が出土し、その瓦が長期間にわたって蓄積されてきたことが確認された。また、本遺跡が大郷瓦窯跡や志貴野廃寺推定地の北側に位置していることを考えあわせてみると、古新田遺跡で検出された古代の竪穴住居に住んでいた人々は、何らかの形で瓦に関わっていたのではないかと推定しておきたい。

5 おわりに

以上、今回の胎土分析の結果から古新田遺跡から出土した古代瓦について考えてみた。今回の分析では、丸瓦や平瓦という瓦の種類や凸面の調整方法の違いから胎土が異なるのかということの主眼に分析結果を見てきたが、今回の結果だけでは明らかにすることはできなかった。これ以外にも、須恵質・土師質の違いや、瓦の大きさや厚さの違い、創建時の瓦と補修用の瓦の違いなど、分析の方法はいくらでもあるように思われる。しかし、今回の分析では、出土した瓦の全体量からいえばごく僅かでしかなく、表採資料などが多く含まれているため正確性に欠ける面があり、小稿の大半が推論の域を出ていない点が多く残念である。これからの分析結果の蓄積に期待していきたい。また、気づいていないことや間違っていることが多くみられるかもしれないが、それらはすべて瓦について知識の乏しい筆者の責任であることを付け加えておく。

最後になりましたが、今回の分析に快く資料を提供していただいた各資料館の方々、ご協力・ご助言をいただいた高浜市やきものの里かわら美術館の天野卓哉氏、ご教示いただいた本センター鬼頭剛氏に感謝の意を表します。

参考文献

- 稲垣晋也他,1991『北野廃寺』 岡崎市教育委員会。
- 梶山 勝,1997「西三河の古代寺院-北野廃寺系軒丸瓦を中心として-」『愛知県史研究 創刊号』「愛知県史」研究編集委員会・愛知県総務部県史編さん室。
- 小嶋廣也編,2003『木戸城・古新田遺跡』 愛知県埋蔵文化財センター調査報告書第111集（財）愛知県教育サービスセンター愛知県埋蔵文化財センター。
- 斎藤嘉彦他,1982『真福寺東谷遺跡』 岡崎市教育委員会。
- 前田清彦,1992「三河の古代寺院と瓦窯」『第9回東海埋蔵文化財研究会岐阜大会 古代仏教東へー寺と窯ー 1、寺院編』 東海埋葬文化財研究会実行委員会。
- 松井直樹,1990『志貴野遺跡』 西尾市教育委員会。
- 豊田市郷土史研究会,1978『豊田市埋蔵文化財調査集報 第六集 寺院址』 豊田市郷土資料館。
- 安城市史編さん委員会,1971『安城市史 本文編』
- 吉良町史編さん委員会,1996『吉良町史 原始・古代・中世前期』『猿投町誌』 猿投町誌編纂委員会
- 豊田市教育委員会・豊田市史編さん専門委員会,1976『豊田市史 一 自然・原始・古代・中世』
- 西尾市史編纂委員会,1974『西尾市史 二 古代・中世・近世上』